



## Microsoft SQL のインストールおよび設定

この章では、Microsoft SQL のインストールおよび設定について説明します。

- [Microsoft SQL Server を使用したアップグレードに必要なデータベース移行, 1 ページ](#)
- [Microsoft SQL Server のインストールと設定, 4 ページ](#)

### Microsoft SQL Server を使用したアップグレードに必要なデータベース移行

Microsoft SQL Server を IM and Presence サービスで外部データベースとして展開していて、11.5(1)SU1 または 11.5(1)SU2 からアップグレードする場合は、新しい SQL Server データベースを作成して新しいデータベースに移行する必要があります。この作業は、このリリースで強化されたデータタイプをサポートのために必要です。データベースを移行しないと、既存の SQL Server データベースでスキーマの検証に失敗し、持続チャットなどの外部データベースに依存するサービスが開始されません。

IM and Presence サービスをアップグレードした後、この手順を使用して、新しい SQL Server データベースを作成し、新しいデータベースにデータを移行します。



---

(注) この移行は、Oracle または PostgreSQL の外部データベースでは必要ありません。

---

#### はじめる前に

データベースの移行は、MSSQL\_migrate\_script.sql スクリプトに依存します。コピーを入手するには、Cisco TAC にお問い合わせください。

表 1:

手順	タスク
ステップ 1	外部 Microsoft SQL Server データベースのスナップショットを作成します。
ステップ 2	<p>新しい（空の）SQL Server データベースを作成します。詳細については、『<i>IM and Presence</i> サービスのデータベース セットアップ ガイド』の次の章を参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「Microsoft SQL のインストールおよび設定」：アップグレードされた IM and Presence サービスで新しい SQL サーバデータベースを作成する方法の詳細については、この章を参照してください。</li> <li>2 「IM and Presence サービスの外部データベースの設定」：新しいデータベースを作成した後、この章を参照して、IM and Presence サービスにデータベースを外部データベースとして追加します。</li> </ol>
ステップ 3	<p>システム トラブルシュータを実行して、新しいデータベースにエラーがないことを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、[診断 (Diagnostics)] &gt; [システムトラブルシュータ (System Troubleshooter)] を選択します。</li> <li>2 [外部データベーストラブルシュータ (External Database Troubleshooter)] セクションにエラーが表示されていないことを確認します。</li> </ol>
ステップ 4	<p>すべての IM and Presence サービスのクラスタ ノード上で Cisco XCP ルータを再起動します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] &gt; [コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択します。</li> <li>2 [サーバ (Server)] メニューから、IM and Presence サービス ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。</li> <li>3 [IM and Presence サービス (IM and Presence Services)] の下で、[Cisco XCP ルータ (Cisco XCP Router)] を選択し、[リスタート(Restart)] をクリックします。</li> </ol>

手順	タスク
ステップ 5	<p>外部データベースに依存するサービスをオフにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability) ] から、[ツール (Tools) ]&gt;[コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services) ] を選択します。</li> <li>2 [サーバ (Server) ] メニューから、IM and Presence ノードを選択し、[移動 (Go) ] をクリックします。</li> <li>3 [IM and Presenceサービス (IM and Presence Services) ] の下で、次のサービスを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco XCP Text Conference Manager</li> <li>Cisco XCP File Transfer Manager</li> <li>Cisco XCP Message Archiver</li> </ul> </li> <li>4 [停止 (Stop) ] をクリックします。</li> </ol>
ステップ 6	<p>次のスクリプトを実行して、古いデータベースから新しいデータベースにデータを移行します。MSSQL_migrate_script.sql</p> <p>(注) このスクリプトのコピーを入手するには、Cisco TAC にお問い合わせください。</p>
ステップ 7	<p>システム トラブルシュータを実行して、新しいデータベースにエラーがないことを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、[診断 (Diagnostics) ]&gt; [システムトラブルシュータ (System Troubleshooter) ] を選択します。</li> <li>2 [外部データベーストラブルシュータ (External Database Troubleshooter) ] セクションにエラーが表示されていないことを確認します。</li> </ol>

手順	タスク
ステップ 8	<p>以前に停止したサービスを開始します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] &gt; [コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。</li> <li>2 [サーバ (Server)] メニューから、IM and Presence ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。</li> <li>3 [IM and Presenceサービス (IM and Presence Services)] の下で、次のサービスを選択します。 Cisco XCP Text Conference Manager Cisco XCP File Transfer Manager Cisco XCP Message Archiver</li> <li>4 [開始 (Start)] をクリックします。</li> </ol>
ステップ 9	<p>外部データベースが稼働していることと、すべてのチャットルームが Cisco Jabber クライアントから認識可能であることを確認します。新しいデータベースが動作していることが確かな場合にのみ、古いデータベースを削除してください。</p>

## Microsoft SQL Server のインストールと設定

### はじめる前に

- Microsoft SQL データベースのセキュリティの推奨事項については、「セキュリティの推奨事項について」の項を確認してください。
- サポートされているバージョンについては、「外部データベースの設定の要件」を参照してください。
- MS SQL Server をインストールするには、Microsoft のマニュアルを参照してください。

Microsoft SQL Server Management Studio を使用して MS SQL Server に接続します。

### 新しい Microsoft SQL Server データベースの作成

新しい Microsoft SQL Server データベースを作成するには、次の手順を使用します。

## 手順

- 
- ステップ 1** SQL サーバと Windows 認証を有効にします。
- a) 左側のナビゲーションウィンドウで、Microsoft SQL Server の名前を右クリックし、[プロパティ (properties) ] をクリックします。
  - b) [SQL ServerとWindows認証モードを有効にする (Enable SQL Server and Windows Authentication mode) ] をクリックします。
- ステップ 2** 左側のナビゲーションウィンドウで、[データベース (Databases) ] を右クリックし、[新しいデータベース (New Database) ] をクリックします。
- ステップ 3** [データベース名 (Database name) ] フィールドに適切な名前を入力します。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。新しい名前が、データベースの下にネストされた左側のナビゲーションウィンドウに表示されます。
- 

## 新しいログインとデータベース ユーザの作成

この手順を使用して、新しいログインおよび Microsoft SQL データベース ユーザを作成します。

## 手順

- 
- ステップ 1** 左側のナビゲーションウィンドウで、[セキュリティ (Security) ] > [ログイン (Login) ] を右クリックし、[新しいログイン (New Login) ] をクリックします。
- ステップ 2** [ログイン名 (Login name) ] フィールドに適切な名前を入力します。
- ステップ 3** [SQL Server認証 (SQL Server authentication) ] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [パスワード (Password) ] フィールドに新しいパスワードを入力し、[パスワードの確認 (Confirm password) ] フィールドでパスワードを確認します。
- ステップ 5** [パスワードポリシーの適用 (Enforce password policy) ] チェックボックスをオンにします。
- (注) [パスワード有効期限ポリシーの適用 (Enforce password expiration policy) ] が選択されていないことを確認します。このパスワードは、IM and Presence サービスがデータベースに接続するために使用するもので、期限切れであってはなりません。

- ステップ 6** [デフォルトのデータベース (Default database)] ドロップダウンリストから、この新しいユーザを適用するデータベースを選択します。
- ステップ 7** [ログイン-新規 (Login - New)] ウィンドウの左側のナビゲーション ウィンドウで、[ユーザマッピング (User Mapping)] をクリックします。
- ステップ 8** [このログインにマップされたユーザ (Users mapped to this login)] リストで、このユーザを追加するデータベースを確認します。
- ステップ 9** [ユーザマッピング (User Mapping)] をクリックし、[このペインにマップされたユーザ (Users mapped to this pane)] ペインの [マップ (Map)] 列で、すでに作成したデータベースのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 10** [サーバロール (Server Roles)] で、[パブリック (public)] ロールのチェックボックスのみがオンになっていることを確認します。
- ステップ 11** [OK] をクリックします。[セキュリティ (Security)] > [ログイン (Logins)] で、新しいユーザが作成されます。

## データベース ユーザ所有者権限の付与

この手順を使用して、Microsoft SQL データベースの所有権をデータベース ユーザに付与します。

### 手順

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ウィンドウで、[データベース (Databases)] をクリックし、作成したデータベースの名前をクリックして、[セキュリティ (Security)] > [ユーザ (Users)] をクリックします。
- ステップ 2** 所有者権限を追加するデータベース ユーザの名前を右クリックし、[プロパティ (Properties)] をクリックします。
- ステップ 3** [データベースユーザ (Database User)] ペインで、[メンバーシップ (Membership)] をクリックします。
- ステップ 4** [ロールメンバー (Role Members)] リストで、[db\_owner] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。

## (オプション) データベース ユーザ アクセスの制限

データベース所有者としてのデータベース ユーザを削除し、Microsoft SQL Server データベースのデータベース ユーザにさらにオプション制限を適用する場合は、この手順を使用します。

**注意**

IM and Presence サービスのアップグレード中に、データベース スキーマのアップグレードが行われる場合は、データベース ユーザにデータベースの所有者権限が必要です。

### はじめる前に

必ず「[IM and Presence サービスの外部データベースの設定](#)」の章の手順を実行してください。

### 手順

#### ステップ 1

ストアド プロシージャを実行するための新しいデータベース ロールを作成します。

- a) 左側のナビゲーションウィンドウで、[データベース (Databases)] をクリックし、新しいデータベース ロールを追加するデータベースの名前をクリックします。
- b) [役割 (Roles)] を右クリックし、[新しいデータベースロール (New Database Role)] をクリックします。
- c) [データベースロール (Database Role)] ウィンドウで、[全般 (General)] をクリックします。
- d) [ロール名 (Role name)] フィールドに適切な名前を入力します。
- e) [セキュリティ設定可能 (Securables)] をクリックし、次に [検索 (Search)] をクリックして [オブジェクトの追加 (Add Objects)] ウィンドウを開きます。
- f) [特定のオブジェクト (Specific Objects)] オプション ボタンを選択し、[OK] をクリックします。
- g) [オブジェクトタイプ (Object Types)] をクリックして、[オブジェクトタイプの選択 (Select Object Types)] ウィンドウを開きます。
- h) [オブジェクトタイプの選択 (Select Object Types)] ウィンドウで、[ストアドプロシージャ (Stored procedures)] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。ストアドプロシージャが [これらのオブジェクトタイプを選択 (Select these object types)] ペインに追加されます。
- i) [参照 (Browse)] をクリックします。
- j) [オブジェクトの参照 (Browse for Objects)] ウィンドウで、次のチェックボックスをオンします。
  - [dbo][jabber\_store\_presence]
  - [dbo][ud\_register]
  - [dbo][ps\_get\_affiliation]
  - [dbo][tc\_add\_message\_clear\_old]
  - [dbo][wlc\_waitlist\_update]
- k) [OK] をクリックします。新しい名前が [選択するオブジェクト名を入力 (Enter the object names to select)] ペインに表示されます。
- l) [オブジェクトの選択 (Select Objects)] ウィンドウで、[OK] をクリックします。
- m) [データベースロール (Database Role)] ウィンドウで、[セキュリティ設定可能 (Securables)] リスト内のオブジェクトリストの最初のエントリをクリックします。

- n) [明示的 (Explicit) ] リストで、[実行 (Execute) ] 権限の [付与 (Grant) ] チェックボックスをオンにします。
- o) [セキュリティ設定可能 (Securables) ] リストのすべてのオブジェクトに対してステップ 13 と 14 を繰り返します。
- p) [OK] をクリックします。  
新しいデータベース ロールが [セキュリティ (Security) ] > [役割 (Roles) ] > [データベース ロール (Database Roles) ] で作成されます。

**ステップ 2** データベース ユーザのデータベース ロールのメンバーシップを更新するには、次の手順を実行します。

- a) [セキュリティ (Security) ] > [ユーザ (Users) ] で、作成したデータベース ユーザを右クリックし、[プロパティ (Properties) ] をクリックします。
- b) [データベース ユーザ (Database User) ] ウィンドウで、左側のナビゲーション ウィンドウにある [メンバーシップ (Membership) ] をクリックします。
- c) [ロールメンバー (Role Members) ] ペインで、[db\_owner] チェックボックスをオフにします。
- d) [db\_datareader]、[db\_datawriter]、およびステップ 1 で作成したデータベース ロールのチェックボックスをオンにします。

**ステップ 3** [OK] をクリックします。

---